

イラストレーター 尾崎眞吾さん

漁港として栄えた金子みずゞの古里、長門市。日本海の波音が聞こえる喫茶店兼アトリエで、尾崎眞吾(67)は背中を丸め、丁寧に筆を進めていく。みずゞの「つつじ」に着想を得た新作だ。幻想的で色鮮やかな少女の水彩画が描かれていく。「みずゞさんの作品には次から次へと興味がい

てくる。こんなに描くことになるとは思わなかったよ」

言葉と絵が響き合うように

尾崎はイラストレーター。その人生の前半は華やかな広告業界の輝きに満ちている。周南市出身。高校卒業後19歳で東京。芸大受験で挫折して飛び込

んだアニメーターの仕事が商業絵での成功の起点となった。

腕を見込まれ、25歳で広告の世界へ。その後にはコミカルなカポチャのキャラクターが登場する味の素のテレビCMがカンヌ国際

な鉛筆画まで絵の幅が広がった。

実際広告祭で銀賞を受賞。その後も米国のクリオ賞やIBA賞など世界の賞を獲得したほか、NHKの「アニメ三銃士」のキャラクターデザインを担当。寝る間を惜しんで働いた。

しかし、「同じような仕事ばかりで良い

か。このまま年を取るのには嫌だ」。マンネリ化していく自分の表現を変えようと、46歳で米国のカンザス・フォートヘイズ州立大学大学院に留学、美術学部で研鑽を積む。カラフルなイラストから緻密

だ。朝焼小焼だ。大漁かさ。私と小鳥と鈴と。大羽鱈の大漁と」の結句、「みんな

出合い、その魅力を表現することを始めた。海や空、小鳥や木を、誰にでもわかるやさしい言葉で、しかも深く描いたみずゞの言葉は、人の心の奥にスッと入り込んで深い印象を残す、優れ

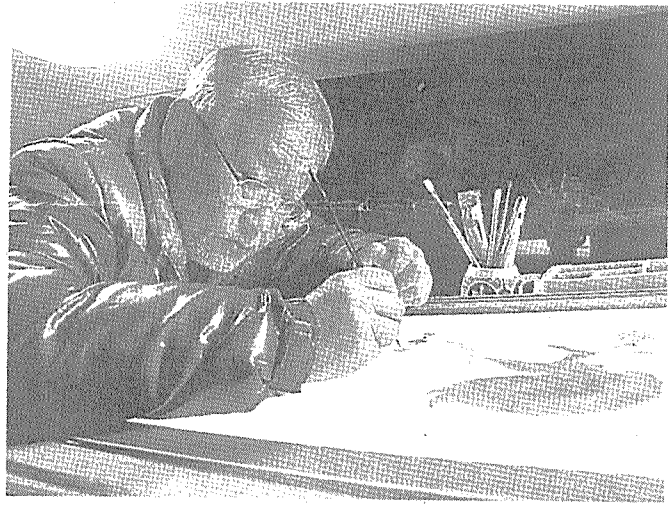
た。海が好きなことから選んだ長門市で、みずゞの作品に

「朝焼小焼だ。大漁かさ。私と小鳥と鈴と。大羽鱈の大漁と」の結句、「みんな

ちがって、みんないい」のワンフレーズで「ああそうだったんだ」と納得させる力。「良い広告にはアイデアがある。みずゞさんが、もし生きていたら素晴らしいコピーライターになっただろう」

プロフィール

おさき・しんご 金子みずゞ童謡絵本「海とかもめ」(JULIA出版局)などを描く。JR山陰線の「みずゞ潮彩」のデザインも。長門市西深川で喫茶店兼アトリエ「シヨアーズ」を開いている。



山口の100人 ②

尾崎がみずゞの詩を描くときに心がけるのは、「見えない部分を描くこと」。言葉と絵が互いに響き合うようにイメージする。夕日や子どもたちの歓声。みずゞが多くの作品でテーマに選んだ仙崎の何気ない風景が、イメージを膨らませる。「いつか同じまなざしで描けるのではないだろうか」